

① 第9次総合計画について

まちづくりにおける最上位計画であります「長与町第9次総合計画」が策定されました。その計画に関連して、平成23年度から平成27年度までの5カ年間にわたる第8次総合計画において、将来像として「郷の和気、夢・緑・創造のまち ながよ」の着実な実現に向け「垣根を越えた信頼ときずなで、ともに育ち合うひとづくり」「快適で地球に優しい持続可能な地域づくり」「誰もが暮らしやすい、いつかは帰りたいふるさとづくり」の3つの基本理念のもと取り組まれた事業の事務事業評価はどうだったのでしょうか。第8次総合計画の総括を検証した上で次の計画があるべきと考えます。第9次総合計画については、長与町ふるさと創生まちづくり調査特別委員会で説明を受け、議会の提案も取り入れてありますが、パブリックコメントは僅か2件でした。非常に少なく住民の意見が十分反映されているのか、住民の意見を確認できたとは言い難いと思います。この計画は住民と行政と議会がともに作りあげるものでなくてはならないと考えます。

そこで以下の質問を致します。

- (1) 第8次総合計画の総括について伺います。
- (2) 第9次総合計画の力点はどこか伺います。
- (3) 第9次総合計画に住民の意向はどのように反映されているか伺います。
- (4) 先に策定された「長与町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合的な推進はどのように行うか伺います。
- (5) 基本構想、基本計画、実施計画の期間は妥当か伺います。

② 教育行政について

平成28年度より学校教育法の一部を改正する法律が施行され、小中一貫教育を行う義務教育学校について各市町村で設置が可能となりました。小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、いじめや不登校が増加したりするいわゆる「中1ギャップ」や学年の区切りが子どもの発達状況に合っていないとの課題に対応するためと言われていています。県議会では設置を可能にする条例が可決しています。教育の効果は数値でははかりにくいとの意見が相変わらず根強く、議論や分析のベースとなるデータが一般に公開されていないことも多いです。例えば、少人数学級で学力は上がるのか上がらないのか。ゆとり教育、ICT投資、これまでも確固たる検証がないまま進められてきた教育政策は多いと言われていています。長与町では「心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現を推進します」と目標が掲げられています。そこで、長与町のエデュケーションについて質問致します。

- (1) 義務教育学校についての長与町の考えを伺います。
- (2) 防災教育についての町の考えを伺います。
- (3) 道徳教育について町の考えを伺います。
- (4) ゆとり教育について町の考えを伺います。
- (5) 教育の格差は親の所得や学歴に起因し、子どもの学力に影響を与え、格差が世代を超えて再生産され、いわゆる子どもの貧困や貧困の連鎖が起きているということがわかってきています。長与町の考えを伺います。